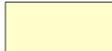


副作用 グレード評価表

: 病院に緊急連絡が必要な症状の目安

副作用名	Grade1	Grade2	Grade3
悪心	・ムカつきはあるが通常通りの食事摂取が可能	・食べる量は低下したが、食事、水分の摂取がある程度可能 ・体重減少あり。	・水分もほとんど取れない ・入院を要する
嘔吐	・1日に1～2回の嘔吐	・1日に3～5回の嘔吐	・1日に6回以上の嘔吐
倦怠感	・だるさはあるが通常通りの生活を送れている	・身の回りのことは出来るが、日常生活の一部に制限が出る	・だるさで日常生活がままならない
食欲不振	・食欲の低下はあるが通常通りの食事摂取が可能	・食べる量は低下したが、体重減少が10%未満	・体重減少が10%以上 ・栄養失調になっている
便秘	・緩下薬や浣腸を不定期に使用している	・緩下薬や浣腸を定期的に使用している	・排便を要する頑固な便秘
下痢	・通常と比べて1日に1～3回排便回数の増加を認める ・ストマからの排泄量が軽度増加した	・通常と比べて1日に4～6回排便回数の増加を認める ・ストマから排出量が増加し、ストマの交換回数も増加した	・通常と比べて1日に7回以上排便回数の増加を認める ・ストマから排出量が増加し、日常生活がままならない
口内炎	・軽度の症状で通常通りの食事摂取が可能	・食べやすく加工すれば食べられる程度の疼痛または潰瘍	・疼痛があり十分に食事・水分摂取が行えない
咳・息切れ	・30分程度の労作で息切れ。 ・時々、咳が出る	・わずかな労作で息切れ・咳が出る ・身の回りのことは出来るが、日常生活の一部に制限が出る	・安静時の息切れがある ・持続する咳で日常生活もままならない
発熱	・38℃～39℃の熱が出る	・39℃～40℃の熱が出る	・40℃以上の熱があるが、24時間以上の持続はない
味覚障害	・味覚の変化はあるが、通常通りの食事摂取が可能	・食生活に影響が出る味覚変化	-
ざ瘡様皮疹	・体表面積10%以下の紅色丘疹、膿疱がある ・疼痛や痒みの有無は問わない	・体表面積の10-30%の紅色丘疹、膿疱がある。 ・疼痛や痒みの有無は問わない ・社会心理学的影響を伴う ・身の回りのことは出来るが、日常生活の一部に制限が出る	・体表面積の>30%紅色丘疹、膿疱があり、中等度または高度の症状がある。 ・経口抗菌薬の治療を要する局所感染がある
爪囲炎	・爪周囲の浮腫や紅斑 ・角質の剥脱	・局所的治療・内服治療を要する ・滲出液や爪の分離を伴う ・身の回りのことは出来るが、日常生活の一部に制限が出る	・外科的治療を要する。 ・日常生活がままならない
皮膚乾燥・亀裂	・紅斑や痒みを伴わず、治療不要 ・体表面積10%以下の皮膚乾燥	・体表面積10%-30%の皮膚乾燥で紅斑、痒みを伴う ・局所的治療を要する ・身の回りのことは出来るが、日常生活の一部に制限が出る	・体表面積の>30%を占め、痒みを伴う ・入院が必要
手足症候群	・痛みを伴わない少しの皮膚の変化	・痛みを伴う皮膚の変化 ・身の回りのことは出来るが、日常生活の一部に制限が出る	・激しい痛みを伴う皮膚の変化 ・日常生活がままならない
その他、皮膚障害	・痛み・痒みを伴わない軽度の症状 ・治療が不要	・痛み・痒みを伴う中等度の症状 ・局所的治療を要する ・身の回りのことは出来るが、日常生活の一部に制限が出る	・入院が必要 ・日常生活がままならない



: 病院に緊急連絡が必要な症状の目安

副作用名	Grade1	Grade2	Grade3
腹痛	・軽い痛み	・身の回りのことは出来るが、日常生活の一部に制限が出る	・日常生活がままならない
大腸炎	・臨床・検査所見のみで治療が不要	・腹痛がある ・粘液・血液が便に混じる	・高度の腹痛 ・腹膜刺激症状がある
筋肉痛・関節痛	・軽い痛み	・身の回りのことは出来るが、日常生活の一部に制限が出る	・日常生活がままならない
筋力低下	・症状があるが、臨床所見上認めない	・臨床所見上認める ・身の回りのことは出来るが、日常生活の一部に制限が出る	・日常生活がままならない
眼の炎症・流涙	・治療が不要	・わずかな視力低下が見られる ・身の回りのことは出来るが、日常生活の一部に制限が出る	・顕著な視力低下が見られる ・日常生活がままならない
浮腫	・指で押すとしばらく跡が残る	・身の回りのことは出来るが、日常生活の一部に制限が出る	・日常生活がままならない
末梢神経障害	・日常生活に支障ない程度の症状	・歩行に多少の支障あり ・家事がし辛い、物が持ちにくいなど、日常生活の一部に制限が出る	・歩行に支障あり ・ボタンが掛けられない、お箸が持てない、入浴できないなど日常生活がままならない
コリン作動性症状	・一時的な鼻水、発汗、腹部症状等はあるが日常生活に支障なし	・身の回りのことは出来るが、日常生活の一部に制限が出る程度の鼻水、発汗、腹部症状等がある	・継続的な鼻水、発汗、腹部症状等があり日常生活がままならない
高血圧	・120～139/80～89mmHg	・140～159/90～99mmHg	・160/100mmHg以上
聴力障害	・軽度の症状はあるが日常生活に支障なし	・補聴器/治療は不要であるが、聴力低下がある ・身の回りのことは出来るが、日常生活の一部に制限が出る	・補聴器/治療が必要 ・日常生活がままならない
出血性膀胱炎	・肉眼でわからない血尿(検査でわかる) ・排尿回数の増加、残尿感、排尿困難、排尿時痛など	・尿の色が赤みを帯びる ・尿路カテーテル留置、膀胱洗浄を要する	・肉眼でわかる血尿 ・輸血、薬剤投与や入院が必要
血管外漏出	・疼痛を伴わない浮腫	・疼痛、浮腫、硬結などを伴う紅斑、静脈炎	・潰瘍または壊死
アナフィラキシー	—	—	・気管支痙攣、血圧低下、浮腫、呼吸困難がある ・皮膚症状の有無は問わない

Common Terminology Criteria for Adverse Events(CTCAE) Version 5.0改変

グレードに関係のない副作用

出血	・鼻や歯ぐきから出血がある ・血便や膣からの出血がある・血痰や咯血がある
眼の症状	・瞼が上がらない・物がかすんで見える・物が二重に見える
1型糖尿病	・異常に喉が渇く ・多飲 ・多尿